

消防署長 様

住所
申告者 職業（職） 電話
氏 名

印

不動産り災申告書

1	り災年月日	年 月 日			
	り災場所				
2	り災物件と申告者との関係	所有者 ・ 管理者 ・ 占有者			
3	取得時の状況				
	建築・購入の別	建築 ・ 購入			
	建物の階数及び延面積	階数	階	延面積 m ²	
	推定・記録・記憶の別	推定 ・ 記録 ・ 記憶			
	大昭和 昭平成 平令和	年 月	3.3m ² (坪) 当たりの金額 (円)	総金額 (円)	
4	取得後の経過				
	修繕・改築	年 月	修繕・改築した箇所	修繕・改築に要した金額 (円)	
		大昭和 昭平成 令和年月			
	増築	年 月	増築の概要	増築面積(m ²)	
大昭和 昭平成 令和年月					
5	り災前の建物詳細				
	建物の用途	屋根	外壁	階数	延べ面積(m ²)
	居住世帯数	世帯	居住人員	人	

建物・収容物以外のり災状況				
6	り災物件名	り災別	数量又は面積	経過年数
		焼・消・爆		年
		焼・消・爆		年
		焼・消・爆		年
		焼・消・爆		年
火災保険の契約				
7	契約会社名	契約年月	保険金額(万円)	

備考

- 1 この申告書は、消防法第34条に基づいて提出を求めるものです。
- 2 あなたに連絡する場合の連絡先の電話がありましたら、その電話番号を記入してください。
- 3 火災によるり災証明を発行する場合、この申告書が出ていると早く発行することができます。
- 4 この申告書は、り災した日から起算して7日以内に提出してください。
- 5 この申告書は、建物1棟について1枚を使用してください。

記載要領

(2の欄)

り災物件と申告者との関係の欄は、あてはまるものを○で囲んでください。

(3の欄)

- 1 各欄の記入に当たって、それが推定によるものか、記憶に基づくものなのか、あるいは帳簿や契約書などの記録によって明らかなものか、いずれかあてはまるものを○で囲んでください。
- 2 総金額は、り災した建物の建築時の総計金額を記入してください。

(4の欄)

建物を取得してから、り災するまでの間に修繕又は改築した箇所を具体的に記入してください。

(5の欄)

- 1 建物の用途欄は、住宅、店舗、倉庫、物置、作業所又は工場などに使用されている用途を記入してください。
- 2 坪を平方メートルで表す場合は、3.3倍してください。

(6の欄)

- 1 り災物件名の欄は、へいの類、庭木の類、看板などり災したものを記入してください。
- 2 り災の別の欄は、あてはまるものを○で囲んでください。ただし、焼、消、爆の意味は次のとおりです。

- (1) 焼：燃えたもの、熱で侵されたものなど。
- (2) 消：消火するために壊されたもの、汚れたものなど。
- (3) 爆：爆発現象の破壊作用によって発生した損害のうち、焼き損害、消火損害以外のものなど。